

経 歴

氏 名 鳩 山 由 紀 夫 (はとやま ゆきお)
生 年 月 日 昭和22年2月11日 (62歳)
本 籍 北海道室蘭市
住 所 北海道室蘭市高砂町3-11-118

【経 歴】

昭和44年 東京大学工学部計数工学科卒業
51年 スタンフォード大学工学部博士課程修了
51年 東京工業大学経営工学科助手(昭和56年退職)
56年 専修大学経営学部助教授(昭和59年退職)
59年 元参議院議員鳩山威一郎秘書
61年 7月 衆議院議員(北海道旧4区)初当選
平成 2年 衆議院議員(北海道旧4区)二期目当選
2年 北海道開発政務次官就任(海部内閣) (平成3年退任)
5年 6月 自民党離党、新党さきがけ結党
5年 7月 衆議院議員(北海道旧4区)三期目当選
5年 8月 内閣官房副長官就任(細川内閣) (平成6年退任)
8年 8月 新党さきがけ離党(旧)民主党結党。代表就任(平成9年退任)
8年10月 衆議院議員(北海道9区)四期目当選
10年 4月 民主党結成
11年 9月 民主党代表就任
12年 6月 衆議院議員(北海道9区)五期目当選
12年 9月 民主党代表就任(二期目)
14年 9月 民主党代表就任(三期目)(12月辞任)
15年11月 衆議院議員(北海道9区)六期目当選
17年 9月 衆議院議員(北海道9区)七期目当選
17年 9月 民主党幹事長就任(前原代表～小沢代表)

友愛の日本を創る

衆議院議員 鳩山由紀夫

友愛社会とは、「どんなときにも仲間や同胞を大切にする社会」です。すなわち、「誰ひとりとして、見捨てない、置き去りにしない、孤りにしない」との思いを、みんなが強く共有し、いかなる状況にあっても、対話を重ね、思いを分かち、助け合い、協働して、より良い未来を共に創っていく社会です。そして、友愛の政治が、まずなすべきは、苦難に打ちひしがれる仲間の手を差し伸べ、困難に挑戦する仲間を応援することです。

今、私たちは、かつて経験したことがない危機に直面しています。世界経済危機、新型インフルエンザ、地球環境問題など、これらの問題の難しさは、地球規模でそれらが同時発生していること、そして、これまでの時代の問題解決手法が通用しないことにあります。だからこそ、政治や社会のあり方、問題解決の方法、政府と地域と市民などの役割を、抜本的にチェンジしなければならないのです。

明治・大正・昭和・平成と続いた官僚主導の中央集権政治、霞が関はじめ一部の既得権者に権力や富や情報を集中させ、上意下達で国民を指導し、経済成長最優先でなんでも金銭的な決着を図ろうとする自民党型手法では、もはや如何なる問題をも解決することはできません。

率直に申し上げて、経済、雇用、環境、高齢化社会、医療・介護、子育て・教育など、いずれも、そう簡単に解決できる問題ではありませんが、この難局を乗り越えていくためには、みんなが勇気を出して、コミュニティを創り、参加して、議論を熟し、知恵を集め、誰もが役割を担って協働し、全力を尽くすことしかありません。

私が、地域主権の徹底とコミュニティの再生をもっとも重視する所以です。今の時代を共に生きる多くの人々が全力で社会に貢献することで、お互いへの尊敬と尊重が生まれ、経済価値万能を超えた、尊厳に満ちた「友愛社会」が創造されるのです。道なき道を歩むことは、不安で、骨が折れ、勇気がいることです。

しかし、日本人はこれまでも何十年かに一度、草の根から、民が立ち上がり、新たな時代を創造してきました。今、まさに、このときが来たのです。自民党がリードしてきた経済成長至上主義の時代は終焉を迎えます。私たち民主党の使命は、一人ひとりの人生や生活と、一つひとつの生命（いのち）を大切にする「友愛の時代」を日本中・世界中のみなさんと共に創っていくことにあります。

本日お集まりの民主党の同志の皆様には、私鳩山由紀夫とご一緒に、その先頭に立っていただきますことを切に願います。

友愛の日本を創る最重点政策

1. 霞が関から市民への大政奉還

本来、市民のために使われるべき予算、組織、人事を霞が関から取り戻すために、大手術を行う。

- (1) 政府、与党の二元体制を廃止し、霞が関に大臣を補佐する国会議員 100 名を配置、政治主導で政策を立案・決定する
- (2) 総理大臣の下に国家戦略局を設置し、官民の優秀な人材を発掘・登用し、新時代の国家ビジョンを創り、それを実現するための予算編成を政治主導で行う
- (3) 国家行政組織法を見直し、総理大臣の意思で時代の変化に対応できる省庁編成を機動的に行えるようにする
- (4) 事務次官・局長などの幹部人事については、民間登用も含め、白紙で再配置を行い、半年毎に業績を評価し、処遇する
- (5) 「天下り」「渡り」のあっせんの全面禁止を含む公務員制度改革を行う
- (6) 「行政刷新会議（仮称）」を設置、全ての予算を精査することで、あらゆるムダを排除する
- (7) 独立行政法人、特殊法人、天下り団体となっている公益法人を原則廃止し、補助金を削減する

2. 自ら範を示す政治

- (1) 企業・団体献金を 3 年以内に禁止する
- (2) 世襲を制限するため、国会議員の 3 親等以内の親族が、同一選挙区から立候補することを禁止する
- (3) 国会議員に関係する政治団体とその資金を親族が引き継ぐことを規制する
- (4) 衆議院の比例定数を 80 削減する

3. 地域主権の徹底とコミュニティの再生

- (1) 地方自治法を抜本的に改革し、国と地方の関係を対等なものとし、地域のことは地域で決める「地域主権国家」をつくる
- (2) 国から地方への補助金を原則廃止し、地方が自由に使える「一括交付金」を創設する

- (3) 国の出先機関は、原則として廃止する
- (4) 約1兆円規模の戸別所得補償制度を創設、若者と共に農村を再生する。一次産業全体を六次産業化路線により活性化する
- (5) 地域における郵便サービスを維持するために、郵政事業を抜本的に見直す

4. 生命や人間の尊厳を重んじ、格差固定社会を解消

- (1) 医療費、教育費を OECD 諸国平均に引き上げることを目指す
- (2) 質の高い介護サービスを提供するため、介護労働者の待遇を改善する
- (3) 「後期高齢者医療制度」を廃止し、国民保険制度を立て直す
- (4) 医療機関の診療報酬を確保し、医師・看護師等の不足を解消する
- (5) 年金記録問題を解決し、年金制度を一元化する

5. 家計所得の2割アップで、経済危機を克服

- (1) 年額31万2千円（月額2万6千円）の「子ども手当」を支給する
- (2) 高校教育を実質無料化し、大学などについても希望者全員に十分な奨学金を支給する
- (3) 雇用保険を強化し、「求職者支援制度」を創設する
- (4) 地域を元気づけるために、中小企業を守り、育てる
- (5) 緑の技術革新で新産業を興し、農商工連携で地域を再生する
- (6) ガソリンの暫定税率を廃止し、高速道路を無料化する

6. 友愛外交の推進

- (1) 国家として自立し、価値観の異なる社会とも共生していける友愛外交を推進する
- (2) 国連をはじめとした国際社会に積極的に貢献し、金融危機、新型インフルエンザに見られるようなグローバル化した世界の諸問題の解決に取り組む
- (3) 地球環境問題、核軍縮（北東アジア非核化構想など）、戦争をさせない政治など国際的な課題の解決に日本がイニシアティブを取る
- (4) 拉致問題の早期解決に取り組む
- (5) 北方領土の全面返還を目指す

民主党代表選挙 鳩山由紀夫候補

推薦人名簿(敬称略、50音順)

赤松 広隆	石関 貴史	犬塚 直史
植松 恵美子	大久保 潔重	太田 和美
加藤 敏幸	川崎 稔	北神 圭朗
楠田 大蔵	行田 邦子	小平 忠正
小林 正夫	小宮山 泰子	谷岡 郁子
筒井 信隆	仲野 博子	原口 一博
広中 和歌子	福田 昭夫	藤田 幸久
牧山 ひろえ	松原 仁	水岡 俊一
山口 壯		